

編集後記

今回の特集は切断と義肢についてである。このテーマは取りあげやすいせいか、種々の雑誌ですでに度々特集が行なわれてきた。私もこのテーマには少なからず関心があり、できるだけ目を通すように心がけてきただけに、この号の特集が通り一辺のもので終りはしないかと気になっていたのだが、御覧の通りのものとなり、このテーマの底の広さを見たような気がした。日本には概算して約10万人の切断者がいると言われており、決して少ない数ではない。したがってあるレベルまで内容が改善されたからと言っても、そこにとどまることなく腰をおちつけた息の長い問題のとらえ方をせねばなるまい。

個々の論文はその内容以外に私の感じたことをのべれば、沢村氏の「サイム切断と義足」はこの分野での数少ない立派な総論であり、青山氏の骨格義肢に関する論文はうまく行きそうで多くの問題点がある困難さを感じ

られる。吉原氏のX線をソケットの適合判定に利用された結果については従来の常識的事実の再評価の重要性を忘れてはならないことを示しているように思われる。大塚哲也氏の「いたみ」の論文は問題のとらえ方の困難さとその工夫が氏のこの問題と取り組んでこられた歳月を感じさせる。

特集以外では講座で大塚氏が肢体不自由児と教育について概念的にわかりやすく解説されており、参考にされる方も多いことと思う。

巻頭言で飯田氏は多くの事をわれわれに教えて下さっている。なかなか含みのある名文で特に最後の数行はわれわれ編集委員への御鞭撻と思い、御期待にそうべく努力するつもりである。またでき上ったものにはそれ相応の歴史があり、私達はそれも銘記しておきたい。

(明石 謙)

○ 編集顧問 (五十音順、敬称略)

天児 民和、大島 良雄、小池 文英、砂原 茂一、津山 直一、水野祥太郎

○ 編集委員

土屋 弘吉、上田 敏、明石 謙、大川 嗣雄、大井 淑雄、荻島 秀男、横山 巖

○ 編集同人

赤津 隆、青山 孝、今田 拓、今村 哲夫、江口寿栄夫、小野 啓郎、河邨文一郎、金久 卓也、兼松 英夫、五味 重春、沢村 誠志、杉山 尚、中村 裕、野島 元雄、間 得之、長谷川恒雄、橋倉 一裕、平方 義信、三島 博信、山内 裕雄、渡辺 英夫、飯田卯之吉、遠藤千恵子、小川 孟、加藤 一郎、小島 蓉子、笹沼 澄子、鈴木 明子、陳 慧玉、野本 卓、高田 玲子

次号予告 (1巻12号)

特集 障害児の教育

肢体不自由児教育総論	福岡教育大学	城戸 正 明
肢体不自由児教育の現状と課題	元大阪府立堺養護学校	早瀬 俊 夫
病弱虚弱教育について	元堺市立浅香山養護学校	河 辺 治
生きる喜びを見いださせる教育 (進行性筋ジストロフィー症児の教育)	千葉県立四街道養護学校	織 田 真 一
訪問教育の実情	横浜市教育局委員会	倉 持 義 和
教育と医療の接点	青森県立あすなろ学園	川 口 宏 二
障害児教育雑感 (脳性まひ児の親の立場から)	大阪経済大学	鈴木 正 里
研究と報告 促通肢位と反応時間	東京都神経科学総合研究所	中村隆一・他
SMONの実態とリハビリテーション上の問題点	自治医大	大井淑雄・他
義肢装具製作士の専門教育 (ニューヨーク大学のカリキュラムの紹介を中心に)	東京都補装具研究所	加倉井 周 一

(担当: 田村・細田)